

No. 11

1953.7月(8月3日)

5月～6月の長雨の間に、海水稀釈の影響をうけて、すっかり落
 してしまつたムラサキハナギンチャクの触手も7日頃から再生しはじ
 め、容足も順調になつて喜んでいたところ、8日の大雨である。
 この日、実験所の雨量計ですら192.7mmに達した、博物館前
 の広場はベンチまでも濁水に没してしまつた。翌19日早曉水
 潮が襲来し、エビカニ類・棘皮動物の大半を殺してしまつた。こ
 の時のClは1/432%、即ち平常の約60%に当る。引込井
 戸に雨水が滲透している事を考へて、直接汲上げのBポン
 プを操作したが、空気が入つて停止し、用をなさなくなつた。後
 に判明したのであるが、この場合はBポンプが動いても役には
 立たなかつたのである。水潮を汲上げた事に気がついて、
 すぐエビ類を水槽から取出し、籠に入れて、塩分のやゝ回復
 する迄待つという処置をとつたが、気がつく前に、より低温度の
 水を相当量流し込んだのであろうか、次の被害を生じた。

全滅：ゾウリエビ(26)、ヤドカリ(21)、カラツバ類(7)

半滅：イセエビ(17)、セミエビ(3)

その他：ゴシキエビ(1)、ヒシガニ(1)、モズシヨイ(1)、マブゴ(1)

ウミスズメ(1)、数年来飼育していた巨大なコブセエ

ビが死んだのは惜しい。

一般に無脊椎動物は滲透圧の調節力がないが特に

やい深い所や持込でいるものは文字通り全滅している。ガミ類、アカホシマンジュウ、スベスベマンジュウは強い。棘皮動物のナマコ、モミジガイも弱い。魚類は浸透圧の調節力があるので、淡水でも豊富に流し込んでおけば、かなりの時間を堪え凌ぐことができる。

この度の降雨の異常な量を反映して、水潮は田辺湾附近からなかなか消失しない。21日6時重ねて甚しい水潮が襲来、前回同様の処置をしたが、前からの弱りが重つて

全滅：スナイソギンチャク、トゲモミジ、イトマキヒトデ

大害：イセエビ(10)、ゴシキエビ(1)、セミエビ(1)

の被害を出した。この時の海水は比重1.0であつた。22日大阪市大、阪大のウエの発生がうまくいかないので海水検定を行ったところ、塩度は13.5‰、田邊湾側の水はPH7.0という始末であつた。後17‰(比重1.2)位までに回復したが、セミエビ(2)、イセエビ(1)が死んだ他、先日来の弱りが重つて魚にも死ぬものが生じてきた。23日も午前中は塩度16‰(比重1.2)PH7.1であつたが、午後は21‰(比重1.6)に回復した。24日も比重は1.5位、以後回復は後に表で示してあるように極めて徐々である。25日以後、生きのびた僅かのエビ類はすべて健在である。

18日から25日夕刻迄、1週間に亘る停電中、平常以上に水を流すためにはディーゼルエンジンを昼夜つききりで頻繁に運転する必要があつた。睡眠の不足に堪え、エンジンの噪音を忍んで勤めて下さつた通存さんに対し、いにお礼を述べて

おかげはならない。

今年はウミガメがよく獲れた。方々に出してあった依頼の反応が現れはじめ。

アカウミガメ	6日	串本 (大型)
		8日	有田郡 (小型)
		11日	実験所北の浜 (大型)
		15日	富田 (大型)
		23日	日置 (大型)
アオウミガメ	1日	串本 (大型)
オサガメ	24日	串本 (大型)

が持込まれ、実験所のウミガメ類は、日本近海産の4種を盡し、計16匹の壯観を呈したが、25日夕刻オサガメが死亡し、現在大小15匹を残している。オサガメは山路委員の協力を得て、内臓及び肉を抜き、ホルマリンをすりかけておき、他方昨年フジラの骨格組立を依頼した羽原氏に打電して、27日夕刻末所にて骨、剥製にかいつて貰っている。完成すれば「また珍しい標本が一つ増す事になるう。先陣に記した玉島市水族館の預り亀は、15日船で受領に来た人達は無事に引渡された。この際魚類購入のあつせんをし、また水族館に澤山いたイセエビ・ウツボの數匹を分譲した。

博物館前庭の芝が次第に消えてゆき、少しひどい雨がある時、すぐ水が溜る事が切実な問題となつていた。後者は特に番所山の整備が進んで木が伐られると共に甚だしくなつて来るのは止むを得ない次第であろう。そこで前月ひとまず道路と芝生の境界にコンクリートを打ち、兼ねて前庭に砂の落ちるのを防いだ。更に道路から芝生へ走り廻るのを防ぎ、降雨時の

水を幾分でも調節し、かつ庭園としての体裁を整えるため、道路に沿うて延べ長さ56m、幅1.5m、深さ1.1mの池を作り、芝生を道路より1寸ばかり高くする計画をたてた。ざっと計算しても約20万円を要するので、到底これを経常費や水族館改善費で行う事は出来ない。そこで至急学校側委員に相談し、その了解を得て、特別予備金を使う事とし、月の始の神谷組により工事にかつたが、工の半ばに今度の大雨に遭遇した。幸い工事は以後も無事に進み、ほぼ竣工の域に達した。ところが今次の大雨禍の影響は実に深刻で、大雨以来、客足の絶えた事はないが、その数は話にならぬ程である。鉄道の廃通もいつになるか判らない。船は緊急な所要のある者に限られ、1日1航海700名程度では、白浜町全体として苦境に喘ぐのは当然であろう。振興会には災害時積立金がありません。1ヶ月はこれで維持できるが、9月の颱風期を考えると、苦境は約3ヶ月は続くと思なければならぬ。このような長期の災害影響を予期できなかったが故に、前庭の工事を始めにいたのであつたが、さてこうなつてみると、この工事さえやらなかつたならば、秋迄の経費の必配はなかつたろうにという事になり、深く責任を感じている。そこで取敢えず次の対策をとる事にします。

1. 秋の委員会を中止して、会議費を経常費にまわす。
2. 水族館員は1ヶ月々日間の休日を実施し、従来支給して来た休日勤務手当を一時中止する。(入場者も事実少いので)
3. 特別予備金の残額はすべて経常費にまわし、足りぬ時は更に諸積立金を一時流用する。

前庭の工事については、番所山側で芝生、池中の睡蓮の植付を引受ける約束であつたが、工が進むと色々な約束通りの事が

して貰えず、結局芝植の $\frac{1}{2}$ は神谷組の手で行った。また前庭から剥ぎ起した芝を、早く番所山に持込、同所の庭に敷きつめた事もある。穴を重ねた結果、

1. 芝土盛上げに不足の土は、番所山に切崩してある土を使用する。
2. 番所山に持込んだ芝は、盛土が完成するまで放置しておく。と枯れる虞れがあるから流用したもので、博物館前庭の売地には、後日番所山から芝を補給する。
3. コンクリートのあくが抜けたら睡蓮の植付をすること。
4. 芝の植付を全面的に引受け得なかつた代償としては、随時何らかの植物を植付ける事にする。

という事にした。なお、前庭のセンジュランを移植したが、その位置には、挾竹桃、竜舌蘭、シユロが当方の申し出通り植えられた。入場者がなくて番所山も非常に困っているので、申出により水族館陳列室出口の番人はしばらく休んで貰い、同時に水族館出口よりは番所山仮入口の標示を取外した。1日も早く状況が好轉するように、双方のために祈って止まない。

博物館では20日公廬している室の西北隅の壁が落ち、ケースのガラスも破ったが、幸い標本は無事であった。大雨の後、水族館で死んだエビカニ類の標本製作などで多忙であつたが、真用に詰つた。昨今、標本箱類の製作も差控えているので、標本類はいずれも完成に至らない。種々の標本に華やかにカビが生えたのも難儀な事であつた。壁が落ちたのは階上に大きな雨洩り場所があるからで、この建物も早急に対策を構じない限り、幾時では廢屋となり終るであらう。

◎ 7月の入場者数

水族館発売切符数

大人 1774

小人 114

団体 1285

計 3173

明光バス発売切符数

大人 2486

小人 35

計 2521

合計 5694

(累計 85649)

無料入場者 35 (累計 371)

◎ 7月の収入

(累計)

観覧券売上金 104,115.00 1,568,517.00

雑収入 4,706.00 85,868.00

6月よりの繰越し 146,987.00

計 255,808.00

○ 雑収入の主内容 3,680.00 逸管理代金

◎ 7月の支出

一般経費

費目別	金額	累計	備考
人件費	45,580.00	199,810.00	
光熱費	6,910.00	28,397.00	
消耗品費	7,127.00	16,385.00	
備品費	—	15,045.00	
修理費	8,890.00	58,801.00	
材料費	17,125.00	50,435.00	
厚生費	1,530.00	2,220.00	
旅費	—	120.00	
諸税公課	—	48,043.00	
雑費	135.00	490.00	
通信運搬費	3,881.00	7,279.00	
契約金	—	165,300.00	
合計	91,478.00	592,325.00	

水族館設備改善費

項目	金額	累計	備考
便所建築追加代	2,400.00	170,280.00	供所款没戻 工上庫
電話室設置	—	3,515.00	
花壇設置	—	6,460.00	
植物飼育工場 整理備付工事	—	36,575.00	
木下標本費	40,000.00	40,000.00	
合計	42,000.00	257,080.00	

実験所改善費

費目別	金額	累計	備考
人件費	4,486.00	17,895.00	月給差額 研究補助
印刷費	—	200,000.00	
備品費	—	123,100.00	
設備修理費	70,200.00	73,225.00	環境設備製作 及建築工事
特別費	—	—	
合計	74,686.00	414,220.00	

博物館費

費目別	金額	累計	備考
人件費	5,550.00	19,250.00	
備品費	5,000.00	26,180.00	標本箱
修理費	—	6,200.00	
消耗品費	—	2,611.00	
旅費	—	240.00	
通信運搬費	—	40.00	
合計	10,550.00	54,529.00	

積立金

費目別	金額	引出高	現在高	備考
バスター資金	7,000.00		51,000.00	
賞与資金	7,000.00		51,000.00	
厚生資金	1,500.00		4,650.00	
災害時予備金	15,000.00		66,577.50	預貯金 3,000.00入庫
会議費積立金	—		40,000.00	

水族館借用料積立金	—		25,000.00	
特別予備金	17,350.00	231,390.00	33,380.00	1等2級船客運 場水橋工事
合計	32,865.00	231,390.00	271,607.50	

支出合計

一般経費	91,178.00
水族館設備改善費	42,400.00
実験所改善費	74,686.00
博物館費	10,550.00
積立金	32,865.00

計 251,679.00

8月に繰越し 4,129.00

◎ 7月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(日)	6	3	9
気温	$\frac{24.4-27.8}{26.1}$	$\frac{24.6-26.0}{25.4}$	$\frac{26.8-28.2}{27.7}$
水温	$\frac{23.5-25.5}{24.6}$	$\frac{24.1-25.5}{24.6}$	$\frac{24.3-27.0}{25.7}$

但し 気温は南水槽室
水温は1622水槽 で10時に測定

◎ 海水比重測定

月日時刻	比重	水温	S	測定場所
7月 22" 10時	0.012	25.8 ^E	17.03	給水栓No22
" 23" "	0.012	24.8 ^E	17.02	"
" 15 ^時 30 ^分	0.0196	27.3 ^E	27.07	突堤の先
" "	0.0189	28.5 ^E	26.18	突堤の外
" "	0.0187	28.9 ^E	25.89	" 内
" "	0.0163	29.0 ^D	22.79	取入口
" "	0.0154	25.8 ^E	21.51	給水栓No22
" "	0.0206	27.0 ^D	28.35	臨海ウラ
" 20時	0.0175	26.8 ^E	24.32	給水栓No22
24" 9 ^時 30 ^分	0.0122	25.0 ^E	17.27	給水栓No1
" 10時	0.0150	25.2 ^E	20.95	" No22
25" "	0.0152	25.7 ^E	21.23	"

26 ^日	0.0187	25.8 [°]	25.82	給水栓 No.22
27 ^日	0.0206	25.8 [°]	26.31	"
28 ^日	0.0210	25.8 [°]	26.54	"
29 ^日	0.0207	26.9 [°]	26.51	"
30 ^日	0.0202	26.8 [°]	27.82	"
31 ^日	0.0201	27.2 [°]	27.63	"

◎ 7月の魚

ルリハナ, オハブロベラ, ヲキベラはこの月の水槽中では目に立つものであろう。ソラスメタイも少数乍ら水槽に入り、赤黄のイソバナも槽中に飾られたが、ツノダシ, イトヒキアジ等はまだ獲れない。

記 録

1. ミカドウミウシ.....ホンワラ等の褐藻を嗜食する。
2. コブセミエビ.....ノリス2年度月報40頁に報告したコブセミエビの足先に附着していたハイドロゾアは Stylactis sp. であった。
3. スナイソギンチャク.....死亡して觸手がすっかり落ちると、刺胞が水中に游離するらしい。2/1日全滅したスナイソギンチャクの水槽に手を入れた時、夏季魚と南館魚は共に手の甲を大きく腫らした。この腫れはムス痒くて約1日間続いた。
4. オオセ.....1年半を生きぬいたオオセが27日朝死亡した。標本にすべく解剖してみたところ、心耳に空気が溜っていた。解体中、急に心臓が動き出したが後の祭りであった。
5. オサガメ.....解剖したところ、腹腔中に血が充満していた。思うに、この亀は甲が軟いので、陸上輸送の途中、自重で内臓を潰し、内出血をするのであろうか。昨春水族館にかつぎ込まれたのも数日しか生きなかつた。内はウマ味が無いが悪息もない。一度塩でしめて料理するとよい。

◎ 事故記録

1. 8日夜半、停電で1時間半断水したが、この時 No.22 水槽で約4貫に達する魚を死なせた。弱った魚を中の小さいアオウミガメやタイマイが食い荒して水が濁った事、水族

館の窓を閉め放していたため被害を大きくする因となっているが、補助エンジンの使用をためらった事も一つの原因であると、係員も強く責任を感じている。

2. 25日午後、エンジンの給油ポンプに空気がはいつて、2時間以上断水し、フエダイ他かなりの魚を死なせた。実験所水族館のエンジン関係者が3名修理にかいつたが成功せず、田辺よりマンマーの専門家に来て貰つた。エンジン関係者の更に勉強されん事を。

3. 紙上始末書

イ) 水槽説明板紛失の件

1mm厚 銅板 2枚

0.5mm厚 " 2枚

上記の備品私共の管理不行届のため行衛不明となりました。今後は十分に注意して、失敗を繰返さないようにします。

南 勲 一
依 海 昭 三

ロ) 陳列室標本盗難の件。

木ネガイ他2英

上記の標本、私共の監視不行届のため盗難をうけました。今後は十分に注意して、失敗を繰返さないようにします。

水族館員一同